



▲手話言語の国際デーロゴ

9月23日は何の日？

毎年9月23日は「手話言語の国際デー」です。また、今年から「手話の日」となりました。

手話言語の国際デーは、平成29年12月19日に国連総会で決議され、決議文では「手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が、社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進すること」とされています。

国内では「手話に関する施策の推進に関する法律」が令和7年6月25日に新たに施行され、第14条で「国民の間に広く手話に関する理解と関心を深めるようにするため、9月23日を手話の日とする」と定められました。

西脇市ではこの日に合わせて、「手話言語の国際デー&手話の日イベント」をみらいえで開催します。イベント当日は手話カフェ、手話語り、手話かるたなどのコーナーを設けます。聞こえない・聞こえにくい人たちと楽しく交流し

ながら、手話言語に触れる絶好の機会となるでしょう。また、全日本ろうあ連盟の「きこえる人ときこえない・きこえにくい人が共に暮らせて、人権と平等が守られた共生社会を求め、全国各地の名所や施設を同時にライトアップしよう」という働きかけにより、施設やモニュメントなどを国連の色、平和の色である青色にライトアップするイベントが広がっています。市内では、9月22日から27日までの期間、市役所・市民交流施設オリナス、茜が丘複合施設みらいえ、西脇病院などを青色にライトアップします。

こうした手話の日イベントやライトアップを通じて、さらに手話を身近に感じていただければと思っています。そして、耳が聞こえない・聞こえにくいことについて、皆さんの理解が広がってほしいと願っています。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪 都麻里(津万地区ほか)



津万平野遠景(南東から) 上方に日野地区が見える。



大津神社(延喜式内社)



「問合せ 郷土資料館(☎2315992)」 「都麻里」は、今から約1300年前の奈良時代初期に編さんされた播磨国風土記の「託賀郡」の条に記される地名です。地名の由来は、播磨刀賣と丹波刀賣が国の境を決めたときに、この村に来て井戸の水をくんで飲んだ際「この水はうまい」と言ったことが転じ、「都麻」になったと記されています。その範囲は現在の津万地区だけでなく、日野、重春、野村、比延地区と広い地域が含まれています。都麻里には、古代寺院の野村廃寺や広大な津万遺跡群などのほか、延喜式内社の大津神社もあり、この地域において中枢地の一つであったと考えられます。

市長からの手紙 西脇を元気に!!



西脇市長 片山象三



7月22日に初めの目標、100回目の乗車を達成

乗るぞ184回！JR加古川線 先月6日、JR西日本は、2024年度区間別の1日1キロ当たりの乗客数(輸送密度)を公表しました。兵庫県関係では、乗客数が千人未満の区間は3路線5区間で、加古川線(西脇市駅～谷川駅)は残念ながら県内最下位でした。ただし、前年度比で増えたのは加古川線の当該区間のみ！地域協議会、兵庫県、丹波市さんと連携し、沿線でのイベントや定期券購入補助をはじめ、利用促進に取り組んだ成果であると大変うれしく

思います。

一方、加古川線は倒木などにより運休や遅延となることが多く、列車が倒木と衝突し立ち往生したケースもありました。先日暑い中、日本へそ公園駅で数名のJRの方が線路に絡まるツルの除去をされていましたが、倒木や草木の撤去についても連携して対応できないかと考えているところです。 私は大阪・関西万博開催期間(4月13日～10月13日)の184日間で加古川線「184回乗車」にチャレンジ中です！通勤通学の方や鉄道ファンの方、旅行者の方など、いろいろな目的で乗車されています。危機的な状況にある加古川線を次世代に残す一番の対策は「市民(地域)の皆さまに利用していただくこと」です。勝負は大阪・関西万博が閉幕する10月13日まで！ぜひこの機会に加古川線(西脇市駅～谷川駅)を利用し、ともに路線を守りましょう！

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

人権・平和についてみんなで考える

～市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介～

「はじめはGAZAいのちのつどい西脇」は、人権や平和について「市民自らが考えよう」という思いで設立されました。

7月には食料安全保障について考え、農村の活気あるまちづくりについて関心を高めてもらおうきっかけとするために「世界で最初に飢えるのは日本～鈴木宣弘講演会～」とチャリティーマルシェを同時開催しました。約150名が参加し、参加者同士が交流するきっかけとなりました。

今後も多くの方が親しみやすく人権や平和について理解を深めていけるよう、アートや音楽を取り入れながら活動していく予定です。



西脇の自然 618

スギヒラタケ

きしめじ科



8月から10月ごろにかけて、スギの切り株や倒木に、小型で扇形の白色のキノコが重なり合って群れて生えています。かつては食用菌とされ、味や香りもよく、頻りに食べられていました。一度にたくさん採れ、味噌汁などに入れて食べた記憶があります。

しかし平成16年以降に、このキノコを食べると急性脳症を起こすことが判明し、死亡例も出て、戦後最悪の食中毒事件といわれています。現在では毒キノコ扱いに変わっていますが、古いキノコ図鑑などではまだ食用キノコとして記載されているものもあります。

農林水産省や厚生労働省からも、このキノコを食べないように、注意喚起が行われています。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】